



(弥生ウォーク資料)

(1) 天理市西部地域

1 前栽遺跡

(1) 位置

- ・ 旧布留川が形成した扇状地、東→西の傾斜地形、標高 55.7m
- ・ 西南 500m に平等坊岩室遺跡、北 1.5km に八条北遺跡
- ・ 遺跡南西 (6 7 8 次) で西方に流下する自然流路 (弥生中期後半～後期に流路の間に微高地)

(2) 遺構

- ・ 縄文晩期の自然流路 (幅 6～12m・深 2～2.7m) 蛇行。
- ・ 5 基の方形周溝墓 (埋葬域を墳丘や周溝で区画する墓制) (
- ・ 1・3・4・5 基は溝を共有 (家族墓的性格) 大和Ⅲ-3 様式 (中期中葉)

(3) 遺物

- ・ 自然流路から大量の凸帯文土器 (縄文晩期土器) が出土 (第 1 次)
- ・ 南西端の自然流路から弥生前期・中期および古墳中後期の溝 (幅 1.5m 深 10cm 2 次)

(参考)

方形周溝墓は、前期に東奈良遺跡に出現するが、佐紀遺跡、大福遺跡、多遺跡、伴堂東遺跡、八条北遺跡等があるが、唐古・鍵遺跡は、第 91 次調査の方形周溝墓 (中期前葉)。

大和地域の弥生時代墳墓は、60 遺跡 271 基。庄内期までは、単体ないし単体同士が数基程度で推移。周溝墓の初現は、大和Ⅰ-2 様式 (前期中段階) から、周溝を共有する周溝墓群は、土橋遺跡 (大和Ⅲ様式方形周溝墓 24 基)、柏木遺跡 (奈良市大和Ⅲ様式方形周溝墓 18 基)、阪手東遺跡 (大和Ⅲ様式方形周溝墓 16 基) など第Ⅲ期 (中期) から。(「大和時代の弥生時代墳墓」)

2 平等坊岩室遺跡

(1) 位置

- ・ 旧布留川が形成した扇状地端部に位置し、標高 53m 前後のヒライ池西側に中心部をもつ環濠を
集落が南側と北西側に居住域を広げる複合遺跡 53m の標高
- ・ 居住域は東西 250m 南北 600m 10 万 m²・東西 400m 南北 600m の遺跡範囲

(2) 遺構

- ・ 自然流路…遺跡の東部を南西から北東に流れる河道 (幅 10m) があり、暗茶褐色土層の下に、砂礫層があり、更に西部を北流する自然河道
- ・ 環濠…自然河道とほぼ平行した走行をたどり、重要施設付近に多条化がなされている。
- ・ 方形周溝墓…自然流路内側で環濠帯外側に 1 辺 9m 程度の方形周溝墓 (28 次平等坊岩室北遺跡)
その南 250m に古墳前期初頭の方形周溝墓 (19 次)
- ・ 水田状遺構…幅 40～50cm、高さ 5～10cm の畦畔状の高まりが数条。南側にマウンド状の高まり
の中央に溝 (幅 40cm 深 10cm 水口状の施設)
- ・ 方形区画…8 次 (外回り 40m 弱内郭 1 辺 30m の正方形溝幅 6m 深 1.2m。後期後半。後期環濠配置)

の中心施設、集落内の最高所の微高地（武庫庄・加茂・池上曾根・尺度・纏向遺跡）

(3) 遺物

- ・ 松菊里式土器…12次調査地北側の前期～中期初頭の自然河道の埋没過程の堆積土より出土。搬入品でなく在地製作（分布域：北部九州から山陰島根ルートと瀬戸内の愛媛岡山ルート）
- ・ 板状鉄斧…30次北側の落込み遺構から出土、中期末・両刃蛤刃状の研ぎ面。大型品

3 平等坊松ノ木遺跡

- ・ 位置 前栽駅西方300m、南方300～400mに平等坊・岩室遺跡 標高54m
布留川水系と石上・豊田山丘陵から流れる水系の境目に立地
- ・ 遺構 弥生後期から古墳時代初めの土器・遺構

4 稲葉遺跡

- ・ 稲葉池の護岸工事に伴ない池周辺を想定
- ・ 中期後半の遺物と砂層堆積層

(参考)

富堂・岩室・稲葉地区にかけて東西の中心方向に扇状地特有のふくらみがあり、中ッ道沿いに南北幅2km程度の旧布留川の堆積状況が確認されている。そこに、遺跡が存在する。

5 合場遺跡

- (1) 位置 東西450m南北300mの遺跡範囲（天理王寺線・井戸堂小学校周辺）西3kmに唐古・鍵遺跡。
- (2) 遺構 南北の流路3本のうち、SD401（4T幅5m深80cm）から、土坑66箇所。庄内を中心に布留式土器が多数出土。SD501（幅2.7m深25cm）が中心に遺跡の北端部。
- (3) その他 合場第二遺跡は、弥生前期～古墳中期の遺物包含層が検出され、合場遺跡と一体遺跡。

6 嘉幡遺跡

(1) 位置

- ・ 標高46m、唐古・鍵遺跡の北方2km。周囲に稲葉遺跡・合葉遺跡などの弥生後期遺跡がある。
- ・ 嘉幡古墳の下層に後期末～古墳初頭の土器群（庄内・布留期を含む）
- ・ 規模の大きい河道（旧布留川・北東→南西）の東岸に形成された微高地

(2) 遺構

- ・ 東岸微高地に弥生前期末、中期後半、古墳前期の遺構・遺物包含層（前期新段階の土坑、古墳期の溝2条（1次）
- ・ 弥生～古墳期の自然河道や河川氾濫原（2次弥生前中後期・古墳前期の土器画出土）

(3) 遺物

- ・ 弥生前期末、中期後半、古墳前期の土器が出土

7 吉田遺跡

(1) 位置

- ・ 布留川南流と大和川の合流点右岸にあり、標高 48m。吉田池北西隅を中心に南北 200m 東西 100m
- ・ 布留川北流と南流の間の低地部に遺跡は未発見。西長柄遺跡・海知遺跡・東井上遺跡まで空白

(2) 遺構

- ・ 吉田池北東・南西に微高地、微高地間に縄文晩期末～弥生前期前半までの自然河道
- ・ 弥生前期の区画溝（幅 1.2m 逆台形）・小溝・ピット。中期の溝。古墳期遺構も存在

(3) 遺物

- ・ 縄文晩期末の凸帯文土器と前期前半の土器が出土
- ・ 前期後半の土器・石包丁・サヌカイト片など多く出土
- ・ 中期後半溝や庄内期の土坑から土器出土。後期後半～末の土器（継続した小規模集落の移動）

8 海知遺跡

(1) 位置

- ・ 旧海軍飛行場(天理西南部海知町・遠田町・岸田町・長柄町)、龍王山麓から西門川が流下
- ・ 福祉ゾーンの計画に伴う調査、標高 52m、唐古・鍵遺跡より平均 2～3m 高い
- ・ 調査地西部～南西部に微高地（4-A・5 調査区）、東半部は落込み(自然河川)

(2) 遺構（4-A）

- ・ 弥生前期：土坑 3 2 基・溝 2 本・落込み 1 箇所・ピット 5 2 基
- ・ 自然河道

(3) 遺物

- ・ 前期中葉～中期初頭にかけての土器が出土特に前期末～中期初頭の土器が目立つ=大和 I-2 様式～II-1 様式とする。…畿内編年では、前期に該当。
- ・ 流紋岩の石包丁 1 点、結晶片岩の石包丁の未成品

9 下永東城（ひがしんじょ）遺跡

- (1) 位置 川西町下永・東城付近は盆地中央部で標高 40m 地点、大和川の流路は現在の 3 倍の幅で上流からの砂が厚く堆積、湧水点は浅く 1m ほど（砂層 2.5m）。但し、基盤土層は形成される。
- (2) 遺構 方形周溝墓 2 基と多数の溝・土坑（切りあいがない）
- (3) 遺物 中期後半の土器の供献土器が多く広口壺や甕などの生活密着型時が少ない。

10 下永東方（ひがしほう）遺跡

- (1) 位置 盆地中央部に位置し、南東から北西の緩傾斜上に立地(土砂が運搬堆積した沖積面)
- (2) 遺構 前期～中期の溝（2）と東西の流路（2・5次）
後期～古墳前期は、墓域（後期末の方形周溝墓と土坑（1次）、庄内～布留期の周溝墓・溝
- (3) 遺物 前期～中期の土器を含め同時期の土器と木製品

(2) 田原本町エリア

1 清水風遺跡

(1) 位置

- ・ 標高 45m の沖積地、遺跡内を自然流路（北方砂層の延長）。500m 北に初瀬川

(2) 遺構

- ・ 1次：遺跡北部：中期中葉の河跡・掘立柱建物(1×3間)
- ・ 2次：中期後半の掘立柱建物2棟・井戸2基・土坑2基、河川跡2条
後期後半の方形周溝墓2基、土坑2基。古墳前期前半の土坑2基
- ・ 4次：遺跡南部：縄文遺物包含層（晩期土器片トヨタ前道路）中期後半の河跡

(3) 遺物

- ・ 絵画土器（1次調査30点・2次調査32点）。シャーマン風と楯を持つ戦士の絵画土器
- ・ 前漢鏡…中期後半と庄内期の遺物包含層から出土した日光鏡

(参考)

- ・ 漢鏡編年…特定の図標を指標として型式編年（岡村編年）
- ・ 漢鏡3期…BC1世紀前葉～中葉（弥生中期後半）文字を主要な文様の異体字銘帯鏡

2 法貴寺北遺跡

(1) 位置

- ・ 唐古・鍵遺跡北東400m間に自然流路、弥生～古墳期の複合遺跡

(2) 遺構

- ・ 方形周溝墓(2)・壺棺3基（後期とするが、終末期）陸橋部を有する方形周溝墓

(3) 遺物

- ・ 鉄鏃

(参考) 唐古・鍵遺跡周辺唐古・鍵遺跡の墓域

① 坂手東遺跡（南西端から900m）

中期中葉の方形周溝墓16基。しかし、法貴寺斎宮前遺跡で中期中葉から後葉の居住域が発見され、その遺跡の墓域と見られる。

② 羽子田遺跡（南西端から800m）

中期中葉の井戸及び方形周溝墓4基。八尾九原遺跡（IV様式の土坑・溝・前期土器等）との関連が強い。

③ 法貴寺北遺跡（東端から北東へ400m）

弥生終末期の方形周溝墓2基・土器棺墓3基。初瀬川河床に集落域を予想

④ 清水風遺跡（北端から北へ400m）

中期前葉の方形周溝墓1基・庄内期の方形周溝墓2基、集落域を有する清水風遺跡の墓域

3 唐古・鍵遺跡

(1) 位置

- ・ 旧初瀬川の支流が形成した沖積地、標高 47m
- ・ 西・北・南地区に前期から継続する微高地。南地区は、中期から活動痕跡、窪地と想定されていた中央区に前期からの活動痕跡

(2) 遺構

① 生産域

- ・ 水田の可能性：中央区 53 次調査の中央部で 10cm ほどの杭が列状に（北北西―南南西）に打ち込まれ、完形石包丁の多さを考慮し、想定する意見がある。
- ・ 青銅器の工房：南区 65 次炉跡状遺構を中心に半径 50m から青銅器関連遺物出土
- ・ 木器（貯蔵穴・未成品）・石器の工房（集中出土地点・未成品）

② 墓域

- ・ 方形周溝墓：東地区 91 次、南地区の第 65 次、第 61 次、第 77 次、75 次など。環濠内部に墓域。
- ・ 木棺墓：第 23 次の朝鮮半島系人骨（前期か中期後半）
- ・ 土塚墓：第 13 次・第 33 次などで環濠付近から検出
- ・ 土器棺墓：第 13 次・19 次・40 次・50 次・59 次・61 次で検出

③ 環濠

- ・ 幅 8m 深 2m の巨大環濠がめぐり、その外側に 5～8 条の多条環濠集落とする。一方、溝を機能別に型式区分（大溝・中溝・小溝）し、集落の変遷を確認する提言がある。多条性・機能・全周かが論議となる。

④ 建物

- ・ 第 74 次調査、第 93 次調査で大型建物が検出、第 22 次調査で柱根と礎板（大型建物の可能性）。祭殿を思わせるような大型建物とする。その機能の評価が分かれる。
- ・ 南地区：第 61 次・65 次・79 次・98 次の住居跡（世帯共同体の復元）
- ・ 西地区：第 8・11 次の柱穴→第 91 次周辺の竪穴住居→第 93 次調査の集落域と地区内で変遷

(3) 遺物

- ・ 板状鉄斧：南区 40 次調査の後期初頭大溝（幅 5.5m）の再掘削溝から出土（第一次調査：鉄痕跡）（参考）
- ・ 食資源をはじめ、各種資源の獲得したあとの分配システムは、社会の権力組織と直接に関連する。階層制度を持つ社会では、資源分配を統制する力を有するリーダーの存在は不可欠となる。
- ・ 資源の分配や交換を成立させている原理を「互酬性」と定義される。
- ・ 互酬性は、社会の発展性に着目し、①一般的互酬性 ②均衡的互酬性（等価的資源交換）③再分配（遠隔地交易等を媒介）④市場交換システム（受容と供給の均衡・生業の専門的分化が進んだ社会）

4 小阪里中遺跡

(1) 位置

- ・ 旧河道の東岸沿いの沖積地、標高 48～49m。里中古墳関連遺物の出土

(2) 遺構

- ・ 1次調査（中期後半の甕棺墓・後期土坑）、2次調査（後期土坑2基小溝2本）、3次調査（北半分が旧河道）、4次調査（弥生～古墳期の溝5条・中期土器片）5次調査（落込み）

5 法貴寺斎宮前遺跡

(1) 位置など

- ・ 農業管水路改修事業（法貴寺・西井上・小阪・阪手に至る）に伴う。50m前後の沖積地
- ・ 7次調査（2007年）…密度の高い遺構・遺物（調査面積2000㎡）
- ・ 2次調査、中世以前は河川跡、上面より弥生後期土器片。

(2) 遺構…7次調査で中期初頭～中期後葉の居住域

- ・ 東調査地域（1～4区）…中期～後期の溝（環濠）、溝（方形周溝墓）、井戸、柱穴、遺物集積遺構など多種、多様の遺構、遺物包含層も濃厚で集落の中心部分。
- ・ 西調査区（6～8区）…中期～後期の溝（方形周溝墓）、井戸、土坑があるが、東地区に比べると相対的に少なく縁辺部。
- ・ 古墳の存在も確認でき、庄内式～布留式期となる。

6 小阪榎木遺跡

(1) 位置

- ・ 県道から西、小阪池南（1～3区）、それ以西を4～8区。

(2) 遺構

- ・ 地区東半（1～3区）で方形周溝墓（2以上）、西端（8区）で方形周溝墓（1以上）、古墳期中期の方形区画溝（方墳？）2基、溝、井戸を検出。

(3) 遺物（調査全体）

- ・ 晩期の突帯文土器、弥生中・後期の土器、古墳前・中期の土師器、須恵器、埴輪のほか古代以降の土師器・須恵器・瓦器・陶磁器があるが、主体は弥生土器で、1～区に集中。4区から西は減少傾向。
- ・ 土器…Ⅱ様式が少量あるが、大和Ⅲ・Ⅳ様式が中心、Ⅴ様式もあるがいくらかの段階で欠落の可能性。
- ・ Ⅴ様式から庄内期は、2区以西に多い。
- ・ 器種は、全て（壺・甕・鉢・高杯・器台・水差し形土器・台形土器）
- ・ 搬入土器がみられない
- ・ 絵画土器が複数（斎宮前1区・4区）…Ⅳ様式（呪術者・建物）
- ・ 石器…斎宮前1区・4区を中心にサヌカイト石器。3区以西の出土少ない。石鏃（1）、石槍（2）、石鏟（1）、未製品（6）、石核、剥片類、石包丁（6）磨製石斧（1）、砥石（3）

(4) 小阪細長遺跡

- ・ 小阪榎木遺跡の西、寺川に近い小阪里中遺跡の間に位置し、大半が氾濫平野に立地
- ・ 2基の方形区画溝（方墳）が検出され、Ⅰ・2号墳とされた。

7 阪手東遺跡

- (1) 位置 標高 50m の沖積地、周囲に弥生遺跡

(2) 遺構(2次調査)

- ・ 中期：中期中葉の方形周溝墓 16 基(大和Ⅲ-1・2 様式供献土器) 土坑 4 基 溝 1 条(区画溝)
最大は、長軸 14m 短軸 11.8m。南北方向と西北西-東南東の 2 つの軸。
- ・ 後期：溝 3 条 土坑 1 基。方形周溝墓群は、終末期～古墳初頭の明褐色粘質土層に覆われて、畦畔状の遺構と足跡、利水施設とみられる溝が検出
- ・ 古墳前期：土坑 1 基

8 東井上遺跡

(1) 位置 遺跡から 1.3km、吉野川分水路付け替えに伴なう。

- ・ 戦時中(柳本飛行場拡大による西門川付け替えに伴なう)に、前期土器を含む遺物包含層を発見

(2) 遺構

- ・ 1次調査で、中期後半土器を出土する河跡や後期後半の竪穴住居など検出し居住域を確認
- ・ Iトレ：河跡 2 条(中期後半土器片・後期前半高杯) IIトレ：後期後半竪穴住居 2 棟・溝(同時期の土器) III・IVトレ：河川本流堆積層

9 阪手遺跡

(1) 位置等

- ・ ジャスコ田原店(200 m²) 暖傾斜地とする
- ・ 第 3 層に弥生遺物包含層(褐色及び黒褐色砂質土)、以下無遺物層
- ・ 砂礫の供給河川は、初瀬川水系(室生火山岩礫=流紋岩質溶解凝灰岩・チャート)
- ・ 井堰周囲で、後期土器片 10 数点

(2) 遺構…弥生の井堰と溝(第 1 次)

- ・ 井堰(加工した 200 本の樹木・板木を縦横に組み、幅 10m)。木杭は、1m ほど打ち込む
- ・ 北側に傾斜(流路の方向))
- ・ 鋭利な加工痕より鉄製工具を想定(報告書)・・・刃幅 3～4 cm

(3) 溝

- ・ 井堰を中心に、南北・北西・南東方向に溝(=井堰が分水機能)
- ・ 溝の高低差より、北流。寺川・初瀬川が北流している。
- ・ 溝の構造は不明であるが、浅いとする。
- ・ 遺跡の先の溝に用水調節堰が推測される(杭の分布より判断?)

10 柿ノ森遺跡

(1) 位置等

- ・ ジャスコ田原店東側・阪手遺跡(西 600m)、中世大溝の下層。2次調査(60m×2.5m 水路工事)

(2) 遺構…阪手遺跡と類似した後期後半の井堰(割り材の先端を削った杭)

(3) 遺物…甕(角閃石を含む胎土・上流から流下)